

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
HIYOKO STUDY船岡教室		令和8年4月1日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		利用定員に応じたスペース確保と活動ごとの空間分けを行い、安全で落ち着いて過ごせる環境づくりを徹底しています。	利用人数や活動内容により一時的に空間が不足する可能性があります。今後は柔軟なレイアウト調整と定期的な見直しを行い、適切な環境維持に努めます。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	4		利用定員や児童の特性に応じて職員配置を調整し、個別対応や安全確保ができる体制を整えています。	急な利用増や欠員時の対応に課題があります。今後は応援体制の強化や人員配置の見直しを行い、安定した支援体制を維持します。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	1	3	視覚支援（掲示物・写真カード）や動線の明確化、活動スペースの区分けにより見通しを持てる環境づくりを行い、個々の特性に応じた声掛けや支援を実施しています。	空間構造や表示の統一が不十分な点があり、バリアフリー面も含め再点検が必要です。今後はレイアウト見直しと職員間での共通理解を図り、環境整備を進めます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		日々の清掃・消毒を徹底し、活動内容に応じた空間設定や整理整頓により、清潔で安心して過ごせる環境づくりを行っています。	活動内容や利用状況により環境にばらつきが生じる点が課題です。今後は定期的な環境点検と職員間の共通認識を強化し、質の維持向上を図ります。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	2	2	活動内容や児童の状況に応じてスペースを区分し、落ち着ける場所の確保や個別対応ができる環境づくりを行い、安心して過ごせるよう配慮しています。	専用の個別スペースが十分でない場面もあり、利用状況に応じた柔軟な運用が課題です。今後は環境整備とルールの明確化を図り、個別対応の質を高めてまいります。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4		定期的な会議や振り返りの場を設け、目標設定と評価を共有しながら職員が意見を出し合い、業務改善に参画できる体制を整えています。	参画状況にばらつきがあり、一部職員に偏る傾向があります。今後は仕組みの明確化と参加機会の均等化を図り、全体でのPDCA推進を強化します。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		保護者向け評価表や面談を通して意向を把握し、内容を会議で共有しながら支援や運営の見直しに活かしています。	意見の反映や周知にばらつきがある点が課題です。今後は改善内容の見える化とフィードバックを強化し、継続的な業務改善につなげます。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		定期的な会議や面談、日々の共有を通して職員の意見を把握し、業務改善や支援方法の見直しに活かしています。	意見の収集や反映にばらつきがある点が課題です。今後は意見提出の仕組みを明確化し、改善内容の共有と実行を強化してまいります。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4		外部研修や助言の機会を活用し、第三者の視点を取り入れながら支援や運営の見直しを行い、質の向上に努めています。	第三者評価の実施や活用が十分でない点が課題です。今後は外部評価の導入を検討し、結果を計画的に業務改善へ反映してまいります。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		外部研修への参加や法人内研修を定期的に行い、職員の資質向上と支援力の底上げに努めています。	参加機会や内容にばらつきがある点が課題です。今後は研修計画の体系化と受講状況の管理を行い、全職員のスキル向上を図ります。
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		個別支援計画に基づき支援プログラムを作成し、活動内容やねらいを整理した上で保護者へ説明・共有を行っています。	公表方法や内容の分かりやすさに課題があります。今後は資料の見える化や発信方法の工夫を行い、理解しやすい情報提供を進めます。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4		面談や日々の観察を通してアセスメントを行い、こどもと保護者のニーズを踏まえた個別支援計画を作成しています。	評価の視点や記録方法にばらつきがある点が課題です。今後はアセスメント手法の統一と共有を図り、より客観的な計画作成につなげます。
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		計画作成時には関係職員で会議を行い、情報共有と意見交換を通して共通理解を図り、こどもの最善の利益を考慮した支援内容を検討しています。	参加機会や意見反映にばらつきがある点が課題です。今後は会議体制の明確化と全職員の参画促進を図り、より質の高い計画作成につなげます。
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		個別支援計画を会議や記録システムで共有し、日々の支援に反映できるよう職員間で確認しながら統一した支援を行っています。	共有の深さや理解度に差がある点が課題です。今後は確認機会の増加と振り返りの強化を行い、計画に基づいた支援の質を高めます。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		標準化ツールの活用や日々の行動観察を組み合わせ、フォーマル・インフォーマル双方のアセスメントにより適応行動の把握に努めています。	ツール活用や評価方法にばらつきがある点が課題です。今後は手法の統一と研修の充実を図り、より精度の高いアセスメントを実施します。

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		ガイドラインに基づき「本人・家族・移行・地域支援」を踏まえて計画を作成し、具体的な支援内容を設定しています。	支援内容の具体性や項目のバランスにばらつきがあります。今後は記載基準の統一と確認体制を強化し、質の向上を図ります。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		職員間で話し合いの場を設け、意見を出し合いながら活動プログラムを立案し、多角的な視点を取り入れています。	参加状況や意見反映にばらつきがある点が課題です。今後は役割分担の明確化と定期的な検討機会の確保を行い、チームでの立案を強化します。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		季節行事や児童の興味関心を取り入れ、活動内容を見直しながら多様なプログラムを実施し、固定化しない工夫を行っています。	内容が偏る傾向や新規案の不足が課題です。今後は情報共有や研修を通じてアイデアを増やし、計画的な見直しを行います。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4		こどもの特性や発達段階に応じて、個別活動と集団活動を組み合わせた計画を作成し、状況に応じた柔軟な支援を行っています。	活動のバランスや切替支援にばらつきがある点が課題です。今後は評価と振り返りを強化し、より適切な組み合わせを検討してまいります。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		支援前に打合せを行い、当日の活動内容や役割分担を確認し、職員間で共通理解を図りながらチームで連携した支援を実施しています。	時間確保や共有内容にばらつきがある点が課題です。今後は打合せの標準化と要点整理を行い、より効率的な連携体制を強化します。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		支援終了後に振り返りの場を設け、当日の支援内容や気づきを共有し、次の支援に活かす体制づくりを行っています。	時間確保や共有の深さにばらつきがある点が課題です。今後は振り返りの仕組みを標準化し、継続的な質向上につなげてまいります。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		日々の支援記録を徹底し、内容を職員間で共有することで支援の振り返りや検証につなげ、継続的な改善を図っています。	記録の質や記載内容にばらつきがある点が課題です。今後は記録基準の統一と確認体制の強化を行い、より効果的な改善につなげます。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		定期的にモニタリングを実施し、児童の変化や達成状況を踏まえて計画の見直しを行い、適切な支援につなげています。	実施時期や評価内容にばらつきがある点が課題です。今後は実施基準の明確化と記録の統一を図り、より適切な見直しを行います。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	4		ガイドラインの4つの基本活動を意識し、日々の活動に組み合わせながら多面的な支援を実施しています。	活動の偏りや組み合わせにばらつきがある点が課題です。今後は計画段階での整理と振り返りを強化し、バランスの取れた支援を行います。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4		活動の選択肢提示や視覚支援を活用し、こどもが自ら選び決める機会を設け、自己決定力の育成につなげています。	選択機会や支援方法にばらつきがある点が課題です。今後は支援手法の共有と統一を図り、継続的な自己決定支援を強化します。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		児童の状況を把握している職員が会議へ参加し、具体的な支援状況や課題を共有することで、関係機関との連携強化に努めています。	参加者の選定や情報共有にばらつきがある点が課題です。今後は参画基準の明確化と事前共有を徹底し、より質の高い連携を図ります。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		関係機関と情報共有や会議を通じて連携し、児童の状況に応じた支援が行える体制づくりに努めています。	連携頻度や情報共有にばらつきがある点が課題です。今後は連携方法の明確化と定期的な情報交換の機会を設け、支援体制の強化を図ります。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4		学校と年間計画や行事予定の共有、下校時刻の確認を行い、送迎時や緊急時の連絡体制を整え、円滑な連携に努めています。	情報共有のタイミングや方法にばらつきがある点が課題です。今後は連絡手段の統一と確認体制の強化を図り、より確実な連携を行います。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4		関係機関と連携し、就学前の支援内容や児童の特性について情報共有を行い、継続的な支援につなげています。	連携機会や情報共有の深さにばらつきがある点が課題です。今後は引継ぎ方法の明確化と連携機会の確保を図り、相互理解を深めます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	2	個別支援計画や日々の記録をもとに、関係機関と連携しながら情報共有を行い、移行先での支援が円滑に開始できるよう引継ぎを実施しています。	情報提供の方法やタイミングにばらつきがある点が課題です。今後は引継ぎ様式の統一や連携時期の明確化を図り、より確実な情報共有体制を整備してまいります。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	2	地域の児童発達支援センターと情報共有や相談を行い、助言を受けながら支援の質向上に努めています。必要に応じて研修参加の機会も設けています。	連携や研修機会にばらつきがあり、全職員への浸透が課題です。今後は連携体制の定期化と研修機会の計画的確保を行い、組織全体の質向上を図ります。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	3	公園外出や地域行事への参加を通して、他児と関わる機会を設けています。日常活動の中でもルールや関わり方を学べるよう支援しています。	放課後児童クラブや児童館との定期的な交流機会が不足しています。今後は関係機関との連携を強化し、計画的な合同活動の実施を進めてまいります。

	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。		4	必要に応じて地域の(自立支援) 協議会へ参加し、関係機関との情報共有や連携強化に努め、支援の質向上に活かしています。	参加機会や職員間での共有にばらつきがあります。今後は参加の定期化と情報のフィードバック体制を整え、組織全体での連携強化を図ります。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		連絡帳や送迎時のやり取り、面談を通して日々の様子を共有し、発達状況や課題について保護者と共通理解を図っています。	共有内容や頻度にばらつきがある点が課題です。今後は伝達方法の統一と情報の充実を図り、より丁寧な連携を強化します。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等) や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4		ペアレント・トレーニングの実施や情報提供を通して、家庭での関わり方や対応力向上を支援しています。	参加機会や周知にばらつきがある点が課題です。今後は開催頻度の見直しと案内方法の工夫により、参加しやすい環境を整えます。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		契約時や面談時に運営規程や支援内容、利用者負担について資料を用いて丁寧に説明し、理解を深めていただけるよう努めています。	説明内容や理解度の確認にばらつきがある点が課題です。今後は説明手順の統一と確認機会の充実を図り、より分かりやすい説明を行います。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		面談や日々のやり取りを通して、こどもや保護者の意向を丁寧に確認し、最善の利益を踏まえた支援計画の作成に反映しています。	意向確認の方法や頻度にばらつきがある点が課題です。今後は確認手順の統一と記録の充実を図り、より適切な反映につなげます。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4		放課後等デイサービス計画を提示しながら支援内容を丁寧に説明し、保護者に理解いただいた上で同意を得よう努めています。	説明の分かりやすさや確認方法にばらつきがある点が課題です。今後は説明手順の統一と理解確認の充実を図り、より丁寧な対応に努めます。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		日常のやり取りや面談を通して保護者の悩みに寄り添い、状況に応じた助言や支援を行い、安心して相談できる体制を整えています。	相談対応の共有や記録にばらつきがある点が課題です。今後は対応方法の統一と情報共有の強化を図り、より適切な支援につなげます。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4		ペアレントトレーニングの実施やイベントを通して、保護者同士やきょうだいに関わる機会づくりに努めています。	交流機会の提供や周知にばらつきがある点が課題です。今後は内容の充実と案内方法の工夫を行い、参加しやすい環境を整えます。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		苦情対応の体制を整備し、契約時や掲示物で周知するとともに、相談や意見に対して迅速かつ丁寧に対応するよう努めています。	周知方法や対応内容の共有にばらつきがある点が課題です。今後は手順の明確化と記録・共有の強化を図り、より適切な対応につなげます。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		通信の発行やHP・SNSを活用し、活動内容や行事予定、連絡事項を分かりやすく発信し、情報共有に努めています。	更新頻度や発信内容にばらつきがある点が課題です。今後は発信計画の明確化と内容の充実を図り、継続的な情報提供を行います。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		個人情報の取扱いルールを整備し、書類やデータの管理を徹底するとともに、職員への周知と研修を通して適切な運用に努めています。	運用や認識にばらつきがある点が課題です。今後は定期的な確認と研修の強化を行い、より確実な管理体制を構築します。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		視覚支援や分かりやすい言葉掛け、個々に応じた伝達手段を用い、こどもや保護者との円滑な意思疎通に努めています。	支援方法や配慮内容にばらつきがある点が課題です。今後は事例共有と研修を通して支援手法を統一し、より適切な情報伝達を図ります。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	3	季節行事やイベントの一部で地域の方にも参加いただける機会を設け、交流や事業所理解の促進に努めています。	地域住民への周知や招待の機会が十分とは言えない状況です。今後は案内方法を工夫し、地域に開かれた行事を計画的に実施してまいります。
非常時等の	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		各種マニュアルを整備し、職員への周知や保護者への説明を行うとともに、想定に基づいた訓練を実施し安全確保に努めています。	周知の徹底や訓練内容にばらつきがある点が課題です。今後は実施計画の明確化と記録・振り返りを強化し、実効性の向上を図ります。
	47	業務継続計画(BCP) を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		BCPを策定し、非常災害を想定した避難・救出訓練を定期的に実施し、職員間で役割確認と安全確保の意識向上に努めています。	訓練内容や理解度にばらつきがある点が課題です。今後は実施計画の明確化と振り返りの強化を行い、実効性の高い体制を整備します。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		契約時や面談時に服薬状況や既往歴、発作対応等を確認し、記録として共有することで安全に配慮した支援を行っています。	情報更新や共有にばらつきがある点が課題です。今後は確認手順の統一と定期的な見直しを行い、より確実な情報管理を徹底します。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		医師の指示書や保護者からの情報をもとにアレルギー対応を行い、誤食防止のため職員間で情報共有と確認を徹底しています。	情報更新や確認体制にばらつきがある点が課題です。今後は管理方法の統一と定期的な確認を行い、安全な対応を強化します。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		安全計画を作成し、研修や訓練を実施するとともに、日々の点検や職員間の共有を通して安全管理の徹底に努めています。	運用状況や理解度にばらつきがある点が課題です。今後は計画の見直しと研修の充実を図り、より実効性の高い安全管理体制を整えます。

対応	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	安全計画に基づく取組内容を、面談やお便り等を通して保護者へ周知し、連携を図りながら安全確保に努めています。	周知方法や理解度にばらつきがある点が課題です。今後は説明機会の充実と発信内容の工夫を行い、より確実な共有につなげます。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	ヒヤリハットを記録し、会議や日々の共有で職員間に周知し、原因分析と再発防止策の検討を行っています。	ヒヤリハットの報告基準や記載内容に差があり、十分な分析や活用に至っていない点が課題です。今後は報告ルールの特明確化と事例の深掘り検討を行い、再発防止策の実効性を高めます。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	虐待防止に関する研修を定期的を実施し、対応方法や意識の向上を図るとともに、職員間での共有と確認を行っています。	理解度や実践への落とし込みにはばらつきがある点が課題です。今後は事例検討や振り返りを強化し、実効性の高い対応力の向上を図ります。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4	やむを得ず身体拘束が必要となる場合の基準を組織で共有し、事前に保護者へ説明の上、同意を得て計画へ記載しています。	説明内容や記録の統一に課題があるため、今後は判断基準や手順を明確化し、より丁寧に適切な運用を徹底してまいります。